

- 6) SAUVAGEAU, C. (1905) Observations sur quelques Dictyotaceae et sur un *Aglaozonia* nouveau. Null. Stat. Biol. Arcachon. 8: 66-81.
- 7) HARVEY, W. (1846) Phycologica britannica. London.
- 8) REINKE, J. (1887) Entwicklungsgeschichtliche Untersuchungen über die Dictyotaceen des Golf von Neapel. Nov. Leop.-Carol. Acad. 40: 9.
- 9) 熊谷信孝 (1968) アミジグサ目の形態発生 IV. ヘラヤハズとサナダグサの四分孢子発生. 藻類 16: 119-131.
- 10) ——— (1969) アミジグサ目の形態発生 VII. サナダグサの配偶子形成について. 藻類 17: 91-98.
- 11) ——— (1972) アミジグサ目の形態発生 IX. コモングサとシワヤハズの四分孢子発生. 藻類 20: 7-13.
- 12) ——— (1976) アミジグサ目の形態発生 XI. ジガミグサとコナウミウチワの四分孢子発生. 藻類 24: 92-97.
- 13) HAUPT, A. W. (1932) Structure and development of *Zonaria farlowii*. Amer. Journ. Bot. 19: 239-254.
- 14) ROBINSON, W. (1932) Observation on the development of *Taonia atomaria*. Ag. Ann. Bot. 46: 113-122.

□ G. E. FOGG: **Algal cultures and phytoplankton ecology** 2nd ed., i-xv+175 pp. 1965. The University of Wisconsin (邦貨にして約4,600円)

藻類とくに微細藻類の生理生態について該博な知識を持つ FOGG 教授が同名の書を最初に世に問うたのは1965年であった。爾來10年を経過し、この学問分野における知識の蓄積は膨大な量に及んだ。FOGG 教授はこれらの知識をよく咀嚼吸収して旧版に加筆訂正を行うとともに、多くの章を完全に書き改めるなどしてここに第2版を出版した。陸水および海に生育する植物性プランクトンの生長生理と生態についての概略とこれらの分野の最近の研究の傾向を知るのに手頃な書物の一つと言える。巻末の参考文献は380以上におよぶ。

(筑波大学生物科学系 千原光雄)